

Topics

- 7月18日に地球科学研究会主催の研修会「CO₂削減に向けた戦略・戦術」で、岡垣上席研究員が講演「業務ビルの温暖化対策の必要性和実効性」を行います。http://www.chiikikagaku-k.co.jp/seminer/sub1_151.html
- 7月23日～25日に東京ビッグサイトで開催される「エネルギーソリューション&蓄熱フェア'08」で、日建設計グループの出展、及び湯澤上席研究員のセミナー講演「建物熱負荷と蓄熱システムのコミッショニングによる省エネ」があります。
- 7月24日に開催する第7回NSRI都市・環境フォーラムは、黒川 清氏（内閣特別顧問、政策研究大学院大学教授）によるご講演「グローバル世界と日本」です。詳細は<http://www1k.mesh.ne.jp/toshikei/>まで。
- ESCO事業3物件により、ただいま 約7900ton-CO₂/年 を削減中です。今後は、定期的に弊社業務によるCO₂削減量をご報告いたします。

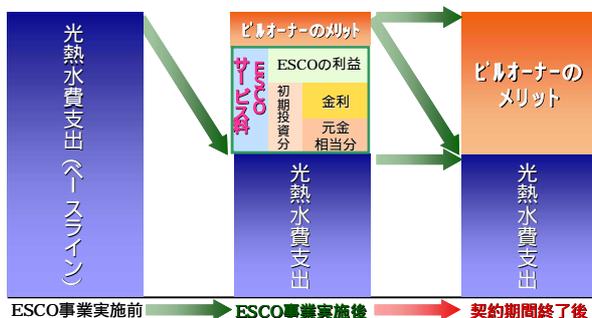
省エネルギー改修ビジネスの現状と将来像

国内のCO₂排出量は年々増加しており、特に排出量の約2割を占める業務部門では、1990年比で約40%程度の増加と非常に顕著です。平成18年の改正省エネ法では、業務部門に対して大規模工場に準ずるエネルギー管理の導入がなされましたが、来年施行予定の改正内容には企業単位での管理が謳われており、更に多くの施設が対象に含まれることとなります。

一方、事務所ビルや商業施設、ホテル、病院等の業務部門のビルオーナーの多くは、光熱水費削減に結びつく省エネの重要性は認識しているものの、日常の保守費用の手配で手一杯であり、省エネ改修工費を捻出することが難しい状況にあります。

このような省エネ改修に関する経済的な制約を打破するビジネスの1つとして、ESCO(エスコ:Energy Service Companyの略称)事業があげられます。ESCO事業は、1990年代後半にアメリカから日本に導入されたビジネスモデルです。

ESCO事業では、エネルギー消費の多い施設に対して、省エネルギー診断を行い、省エネ改修の計画から設計・施工、保守・運転管理、資金調達等の包括的なサービスを提供し、その結果得られる省エネルギー効果を保証します。ESCO事業者は、省エネルギー効果(光熱水費削減額)の一部をサービス料として受け取るため、ビルオーナーは事業を行うにあたり、新たな経済負担は生じない形となります(下図参照)。



ESCO事業が国内に導入されて10年ほどになりますが、事業の実施上、様々な工夫がなされています。例えば、老朽化した熱源機器などの更新を条件に入れて実施する「改修条件付」事業、ビルオーナーがメリットを上回る費用を支払って、より大きな省エネを実現する「費用持ち出し型」事業などの事例があります。最近では、実施が困難と考えられていたテナントビルにおいて、ビルオーナーとテナントが共同でESCO事業を行う枠組みも検討されています。これらに共通するのは顧客の立場にたったサービスの提供やビジネスの進め方であるということですが、今後、更に工夫された事業の進展が期待されます。

さて将来的には、ESCO事業に代表される省エネルギー改修ビジネスはどのように展開されていくのでしょうか。影響を与えると考えられる要因を2つほどあげてみます。1つは、今後これまで以上にCO₂の価値が向上していくということです。最近にわかに“国内排出量取引制度”の議論が活発化しています。仮に、排出量取引により国内でもCO₂に価格がつくことになれば、省エネ改修による光熱水削減費にCO₂価格が上乘せられ、これまでより事業性が向上することとなります。より多くの省エネ(CO₂削減)改修メニューを採用できることが期待されます。CO₂排出のより少ない“新エネルギー”を利用した新たなメニューも含まれてくるかもしれません。2つめは、来年の省エネ法の改正による影響です。企業単位での規制を行うことにより、対象となる企業数は現在の1割から5割程度まで増えると考えられ、ビジネスの対象となる施設数が大幅に増加します。また、コンビニなどの小規模施設では、通常の省エネ改修メニューでは採用が限られますので、施設条件に合致した新たな改修メニューを検討・開発していく必要が生じると考えられます。

いずれにせよ、これまでのESCO事業実施で培ってきた顧客指向型のサービスが、今後の省エネルギー改修ビジネスの「カギ」となりそうです。(高橋 直樹)

定期配信をご希望の方

定期配信を御希望の方は、下記メールアドレスまで。
(chihiro.kimura@nikken.co.jp 担当: 木村千博)

編集後記

7月に入り“真夏日”という言葉が聞こえてくるようになりました。エネルギー利用を抑え、どれだけ快適にこの夏を過ごせるか、工夫のしどころです。(Y)